



清華亭は、札幌最初の都市型公園であった「偕楽園(かいらくえん)」の中に、開拓使が貴賓接待所として建てたものである。設計・監督は開拓使の工業局が担当し、約8ヶ月間の工事によって、1880(明治13)年6月に完成した。翌年9月1日、明治天皇の札幌行幸の際には、天皇がこの亭で御休息されたという由緒ある建物で、建物の完成に当たって、時の開拓使長官だった黒田清隆が「水木清華亭」と名付けたことから『清華亭』と呼ばれ今日に至っている。



見どころ

明治天皇は札幌行幸の時には偕楽園を視察され、精華亭でご休息を取られた。その際に精華亭の座敷から鍵型の縁側を通して庭園を眺められ、大変お気に召されたのだそう。ここからの眺めが見どころの一つである。また、和洋折衷の中での色々な試みがある。和洋両室を直接連結し、和座敷に洋風の両開扉がそのまま現れている。洋風導入過程での特異な手法で、建具額縁も洋風になっており不思議な感覚に陥る。洋室の天井中央のシャンデリア基部に、漆喰彫刻で和風の桔梗模様が施されているところや、明治初期の建築にはめずらしいボウウィンドウも見どころである。

この建物は、全体に洋風の造りの中で、至る所に和風の様式を調和させている和洋両様式を取り入れた古い建物である。自然条件の厳しい北海道で百有余年を生き抜いてきた。使用されている建材は全て道産材で、トドマツやアカマツである。土台の石や玄関のたたきには札幌軟石が使われている。また外壁は、板を一枚一枚重ね合わせた「下見板張り」になっており、隙間風などが入らず、寒地型の外壁の造りになっている。



和室は15畳の広さがあり、日本の伝統的な書院風作りで、壁は京壁づくり。東側に特徴的な鍵型の縁側が配置されている。



1880(明治13)年、清華亭の建築と並行し、開拓使の指導者であったアメリカ人のケプロンに見出されたルイス・ベーマーの設計により、ゆるやかな起伏のある高低差を利用して和洋折衷の庭園が造成された。現在は、かつての「偕楽園」の姿はないが、亭の周囲には樹木が四季折々の花を咲かせ、来訪者の目を楽しませている。



建物名称	清華亭
建築年	1880(明治13)年6月
構造・様式	木造平屋建
所在地	北海道札幌市北区北7条西7
電話	011-746-1088(現地警備員室)
H	P
	https://www.city.sapporo.jp/shimin/bunkazai/pdf/documents/p30p31_seikatei_ol.pdf
営業時間	9:00~17:00
休館日	年末年始(12/29~1/3)
観覧料	無料
アクセス	JR札幌駅北口から西へ徒歩10分
備考	札幌市指定有形文化財



旧永山武四郎邸は、第二代北海道庁長官・永山武四郎が屯田事務局長時代に建てた私邸である。1877(明治10)年代前半頃の創建で木造平屋建て、建築面積136.06㎡の和洋住宅である。小屋組は、様式のキングポスト・トラス。外壁は低い堅羽目の腰を回し、上部は隅柱型付の下見板張りとしている。玄関横の妻に十字型の飾りがついている。

敷地は札幌繁栄図録によると、木製の板塀で囲まれ、北側には2本の木製橋がかけ渡してある。玄関からホールに進み、南側の庭園に面して洋風の応接室と15帖の表座敷が続いている。2室は引き分け板戸で隔てられ、表座敷に隣接する北側の8帖脇座敷は、主人の居室と推測される。

表座敷



表座敷から応接室を臨む

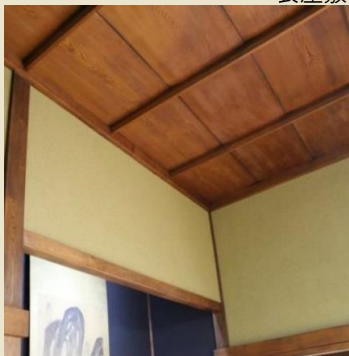
脇座敷



見どころ

表座敷と脇座敷の天井は、2室とも竿縁天井だが、床差し(床挿し)になっている。これは通常は忌み嫌われるが九州地方には多く見られるようである。

表座敷



特に興味深いのは脇座敷の天井板で、道産材(マツ・カツラ)の寄せ張りとしている。表座敷の板目との対比が面白い。

脇座敷



応接室と表座敷を分ける開口部の額縁は、洋室側と和室側で形状が異なり、特に和室側の額縁は、市内に現存する清華亭とよく似た形状である。

表座敷の廊下から庭に出る沓脱ぎ石は大振りの軟石を重ねたもので、玄関よりも重厚な印象を受ける。



2005(平成17)年度に大規模な保存改修工事を実施。隣接する洋風2階建ての「旧三菱鉱業寮」は、永山邸を買収した三菱鉱業(現在の三菱マテリアル)が1937(昭和12)年頃に増築したもので、2016(平成28)年11月から保存活用工事が実施され、2018(平成30)年6月23日にリニューアルオープンとなった。その際、1階にカフェが開設。車椅子用のスロープ、トイレも設置され、2階は貸室としても利用が可能。



建物名称	旧永山武四郎邸
建築年	1877(明治10)年代前半頃
構造・様式	木造平屋建
所在地	北海道札幌市中央区北2条東6-2
電話	011-232-0450
H P	http://sapporoshi-nagayamatei.jp
開館時間	9:00~22:00
定休日	毎月第2水曜日(祝日の場合はその翌日) 年末年始
入館料	無料
駐車場	車椅子利用者等用駐車場 1台
アクセス	地下鉄東西線「バスセンター前」下車、10番出口より徒歩10分
備考	北海道指定有形文化財

(旧) 岡川薬局 CafeWhite

北海道小樽市

(きゅう) おかがわやつきよく かふえほわいと

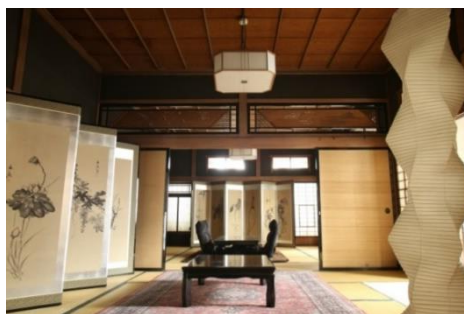


明治28（1895）年創業の岡川薬局は小樽で数少ない薬種売薬の老舗であった。昭和5（1930）年、二代目が本建物を新築。その娘は小樽で2番目の女性薬剤師であった。建設地はJR函館本線の南小樽駅の近くにあることから、当時この周辺は商業地として繁栄していたことが窺える。本建物は店舗併用住宅であり、主屋と石蔵から成る。主屋は木造モルタル塗とタイル貼の3階建てで赤いマンサード屋根と装飾のあるドーマー窓、2階の正面の縦長窓の中心にはかつてバルコニーが配されており、1階店舗のアーチ型ショーウィンドウ、右読みの看板など昭和の洋風な意匠が色濃く残っている。後方は切妻の2階建てである。外観は洋風だが和洋折衷の造りで、今回紹介の和室は主屋の2階にある。階段を上ると正面（道路）側に縦長の窓が迎え、二間続きの十二畳半と十畳の和室、廊下を挟んだ後方に六畳と三畳および六畳の各和室が配されている。特に十二畳半の和室は格調ある書院造りで、座敷飾り（床、付け書院、違い棚）、欄間や障子の繊細な組子細工、洗練された引手などに当時の匠の卓越した技を見ることが出来る。

1階正面の薬局は2層分の高い天井をもち、板張りの中心には漆喰塗の中心飾りが施されている。調剤室のガラス窓に当時の女性薬剤師の姿が重なるようである。

見どころ

岡川薬局は店舗併用住宅であり、1階正面に薬局、他は居住空間である。2階正面の縦長窓の背後に廊下を挟み、この家で最も格式の高い十二畳半の和室がある。まず目を引くのは二間半の床の間と脇床、座敷飾りである。こぶ洗い出しの重厚な床柱を中心に、付け書院の繊細な組子、違い棚には筆返しを施され、金色の天袋の鈍い輝きと鶴の透かし彫りの引手が小さいながら空間を引き締めている。続く十畳間への欄間は、松の透かし彫りと麻の葉模様の組子細工を塗り縁と竹で囲んでいる。真、行、草でいうところの行の座敷である。縁側的な廊下は洋風と和風の意匠が調和しており、かつて住人が過ごしたハイカラな日常生活に想いを馳せるのも楽しい。



二間続きの和室：
欄間は透かし彫りと組子、竹を組み合わせ凝った造り

平成20（2008）年に四代続いた薬局を廃業。平成22（2010）年に（旧）岡川薬局として極力現状維持の状態でご滞在ハウス、カフェに用途変更され、観光都市小樽ならではの宿泊を軸としたビジネスモデルの創出を展開している。歴史的建造物が保存のみならず、新しい役割を見出し活用され、将来に建築文化を繋げた好例と言える。



かつての薬局は
カフェとして営業

取材協力
N合同会社
建築史家 駒木定正氏
「小樽の歴史的建造物」
(発行：小樽市教育委員会)



建物名称	(旧) 岡川薬局 CafeWhite
建築年	1930 (昭和5) 年
構造・様式	木造三階建・在来工法
所在地	北海道小樽市若松1-7-7
電話	0134-64-1086
H P	http://www.re-okagawapharmacy.info/
開館時間	カフェ：日曜 11:30~18:00 (LO 17:30) 火曜、水曜、金曜、土曜 11:30~21:00 (LO 20:30) ※連休最終日は18:00で営業終了 ゲストハウス：チェックイン15:00~22:00 チェックアウト~10:00 ※ゲストハウスはカフェ定休日も営業 レンタルスペース：お問い合わせください
アクセス	JR南小樽駅より徒歩10分 駐車場有
備考	小樽市歴史的建造物、小樽市都市景観賞奨励賞

旧岡田邸（現：おかだ 紅雪庭）

北海道旭川市

きゅうおかだてい（げん：おかだ こうせつてい）



旧岡田邸とは1933（昭和8）年に建てられた酒蔵のオーナーの自宅。完成までに2年を要し、見積りもない建て方と呼ばれ贅を尽くしたこの建物は、いたるところが「本物」の歴史的建造物として残っている。また、別名「紅葉館」とも呼ばれ、落葉樹を巧みに活かした日本庭園も、庭師の丹念な手入れにより、今もなお美しさを保ちつづけている。



「紅雪庭」の名前の由来にもなった紅葉の上に積もる雪の様子

見どころ

旧岡田邸は「北の誉」という酒蔵のオーナーの自宅として誕生。正面玄関の当時では珍しい外国製のステンドグラス、西日を美しく見せる銅の入った硝子、細部に渡るこだわりの意匠、クリスタルのシャンデリア、大陸的な高い天井、遊び心のある欄窓の数々。30畳の和室とアーチ型の居間、美しい漆喰の壁、そして、秋に紅色に染まる庭園。

2年もの月日を要して建てられた『見積りもない建て方』と言われるお屋敷は、和と洋との空間を巧みに合わせ持つ北国らしい建物である。

建築物を生かし、新しい息吹を与えて守っていく「動態保存」というカタチで、現在は蕎麦と日本料理「紅雪庭」として食事を楽しみながら、建物を堪能する事ができる。

【沿革】

1933（昭和8）年 清酒北の誉創設者岡田重次郎宅として建築。

1934（昭和9）年、1938（昭和13）年には皇室の方にご宿泊頂いた。

岡田邸は、重次郎、正平、正雄と三代に渡り住み、

2003（平成15）年10月より、京都在住の資産家が所有。

取り壊しが危ぶまれていた岡田邸を何とか残したいと

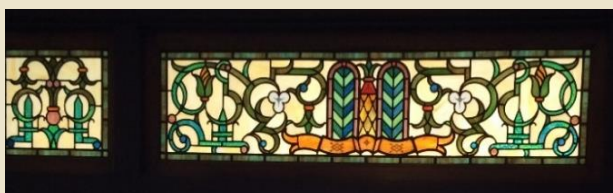
2009（平成21）年10月 旧岡田邸200年プロジェクトチームを発足。

2010（平成22）年10月 一般財団法人旧岡田邸200年財団を設立。

2011（平成23）年5月 財団が京都の資産家より買取、現在に至る。



撮影：山崎一



建物名称	旧岡田邸（現：おかだ 紅雪庭）
建築年	1933（昭和8）年
構造・様式	木造二階建
所在地	北海道旭川市5条通り16
電話	0166-22-5570
H P	http://okadatei.jp/index.html
営業時間	昼 11:30～15:00 夜 17:30～21:30
アクセス	旭川駅よりタクシーで7分 駐車場有



大広間から臨む庭園



函館港を一望できる敷地

見どころ

旧相馬家住宅は一代で築いた函館の豪商相馬哲平の私邸。1907（明治40）年の大火で他は類焼し蔵のみが残る。翌1908（明治41）年大火復興のシンボル「希望の星」として建てられた建物で、職人や材料は全国から一級品を取りよせた。1921（大正10）年に再び大火に見舞われたが一部の損傷のみで助かった。木が自らを火事から守った痕跡がある。2008（平成20）年まで子孫の方が住まわれていたが、現在は一市民が所有し、一般に公開しながら保存している。



1854（嘉永7）年日米和親条約で箱館開港した歴史から和洋折衷が函館のスタンダード。

傾斜のある地形を活かし石垣を築き、その上に敷地を造成している。イギリス領事館を見下ろす場所で、領事館の庭も港へと続く景観もすべてを私邸の庭としている空間づくりに商人の心意気を感じる。特別な人のためのむくり屋根の大きな玄関、外国の客人をもてなす配慮、大広間の掛け軸や家財、いたるところに使われている屋久杉の一枚板、見る位置によって表情を変える書院造り、部屋ごとにデザインが違う釘隠しなど、細部にまで贅を尽くされた家は寒冷地ならではの工夫も見られ、当時の暮らしの息遣いが感じられる。蔵を歴史回廊、歴史的美術館のギャラリーに変え、北海道の宝と言われている江差屏風やアイヌ絵巻など、当時の北海道の風土や賑わいがわかる資料の見学もできる。



多くの方に「旧相馬家住宅」に入館頂き、110年以上歴史が続くこの家を未来へつなげてゆきたいと協力を呼びかけている。

建物名称	旧相馬家住宅
建築年	1908(明治41)年
構造・様式	木造平屋、一部二階建
設計・施工	筒井与三郎
所在地	北海道函館市元町33-2
電話	0138-26-1560
H P	http://www.kyusoumake.com
入館料	4月～11月15日 9:30～16:30(水・木曜日休館) 一般/900円、大学生/800円、高校生/500円 中学生以下/300円 80歳以上の方・身体障害者カードをご提示の方/700円
アクセス	JR函館駅より市電 函館どつく前行「末広町電停」下車 徒歩5分、駐車場有
備考	国指定重要文化財 写真提供：旧相馬家住宅

旧五十嵐家住宅事務所兼主屋

北海道釧路市

きゅういがらしけじゅうたくじむしょけんおもや



「旧五十嵐家住宅事務所兼主屋」は令和2（2020）年8月17日付で登録条件である「建設後50年を経過し、造形の規範となっているもの」として、国登録有形文化財に登録となった。

旧五十嵐家住宅事務所兼主屋は昭和24（1949）年、工務店を営んでいた五十嵐一雄氏（故人）が自宅兼事務所として建築した木造2階建てである。五十嵐氏は明治41（1908）年生まれで、宮大工のもとで修行し、戦後独立し工務店を営んでいた。勉強熱心で、暮らしやすさを心がけていたとの事である。

住宅街にたたずむ和洋折衷の建物は様々な工夫がある。階段の手すり壁の内側のスリッパ入れ、家の内外が同時に灯る玄関の灯り、台所から玄関の客が見える小窓などの工夫が有る。

玄関脇の事務所は防寒対策の為2重窓とし、建物の中央には造作のシステムキッチンが作られ、食器棚・氷で冷やす冷蔵庫などが組み込まれている。又2階には勾配天井の洋室が3部屋有る。

茶室は水屋・にじり口などがある本格的な造りとなっている。続き間の六畳間と十畳間の和室は、大勢の人が集まる時にも対応出来る空間である。六畳間は本格的ではないが、書院造りとなっている。十畳間の方は台所に繋がる窓、飾り棚、縁側、神棚、仏壇など工夫が詰まっている。

見どころ

旧五十嵐家住宅事務所兼主屋は、釧路市で工務店を営んでいた五十嵐一雄氏が自宅兼事務所として建築した建物である。外観は上部の白壁と灰色の板張りのコントラストが美しい建物である。

又内部は和洋折衷になっていて、六畳間と十畳間の和室の続き間と、水屋の有る本格的な茶室が有る。

現在は一般の方が所有しており、旧五十嵐家住宅保存の会が管理運営をしており、様々なイベントを開催し一般公開している。



旧五十嵐家住宅保存の会では、コンサート・料理教室など様々なイベントを開催し、一般公開をしている。

一人でも多くの方に見学して頂き、保存に繋げる事が出来ればと望んでいる。

建物名称	旧五十嵐家住宅事務所兼主屋
建築年	1949（昭和24）年
構造・様式	木造二階建
所在地	北海道釧路市富士見2-7-5
H P	—
開館時間	イベント時に一般公開
問い合わせ	旧五十嵐家住宅保存の会事務局 担当：金子ゆかり 携帯：090-3110-1574
アクセス	釧路駅から車で5分
備考	国登録有形文化財 旧五十嵐家住宅保存の会が管理運営

